

夕方時の少女戦線



夕方時の少女戦線

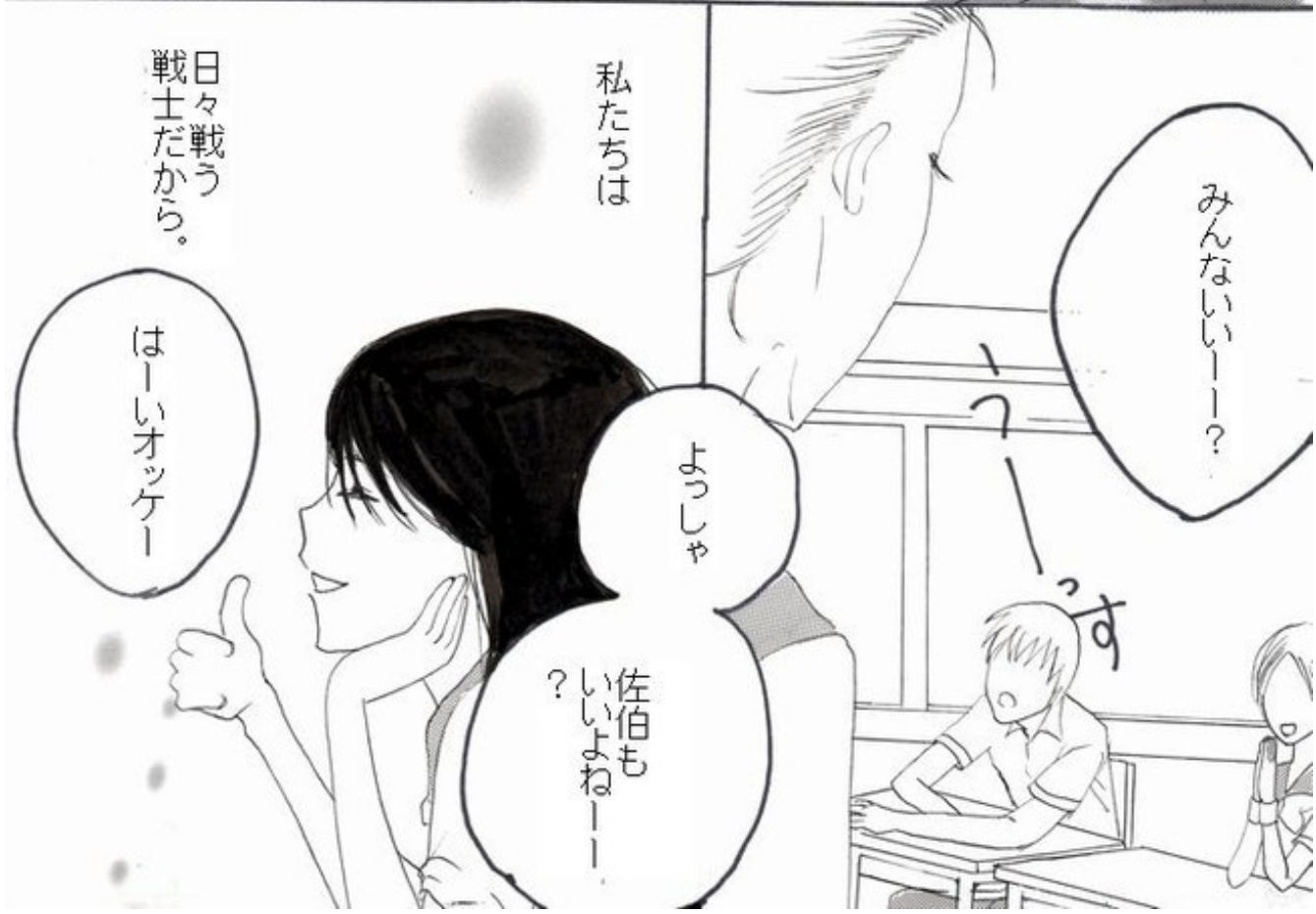




~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

今期の学級委員長は  
佐伯に決定☆

制服は戦闘服だ。



みんないいー？

私たちは

日々戦う  
戦士だから。

はいオッケー

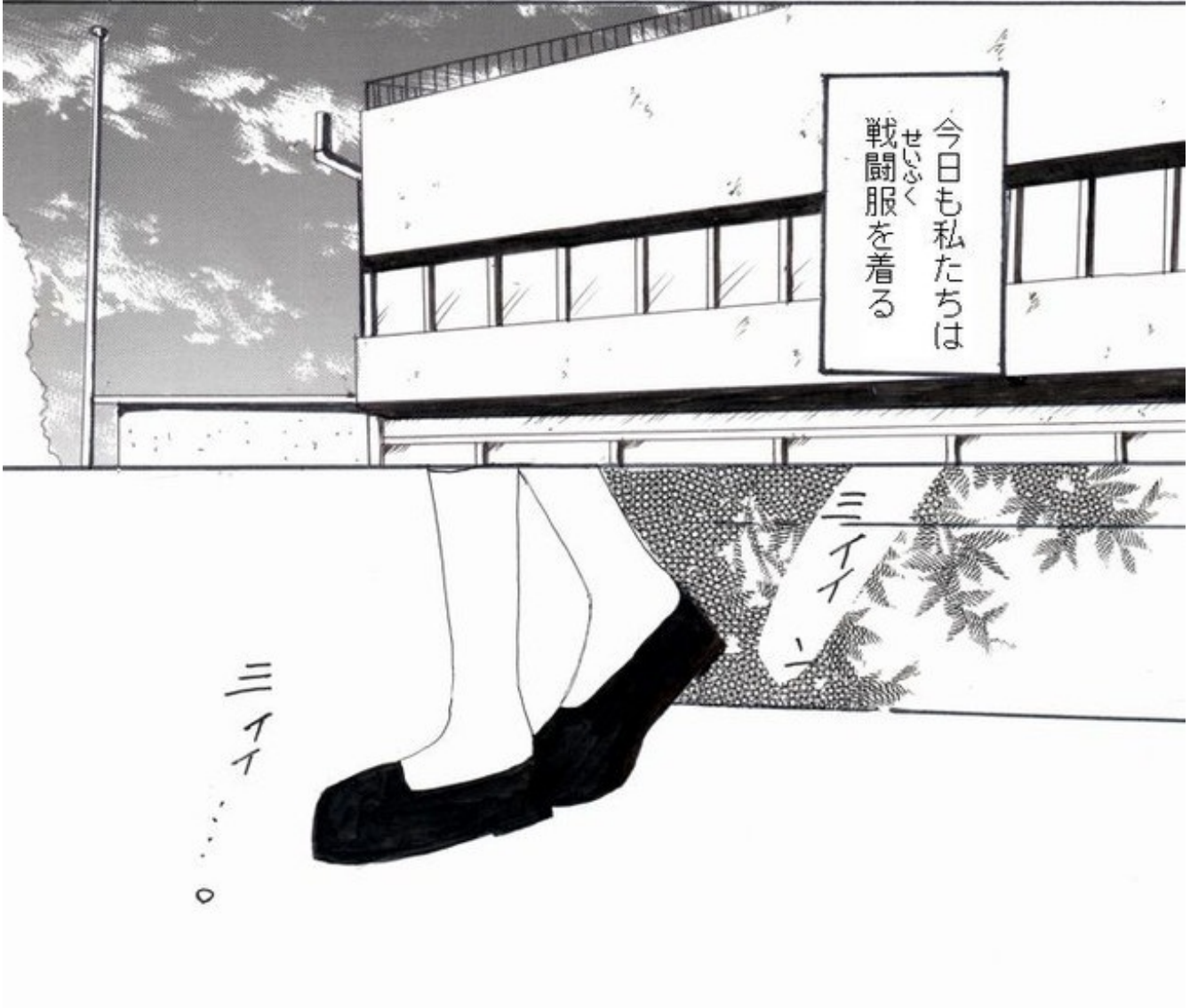
ようしゃ

佐伯も  
いいよねー？

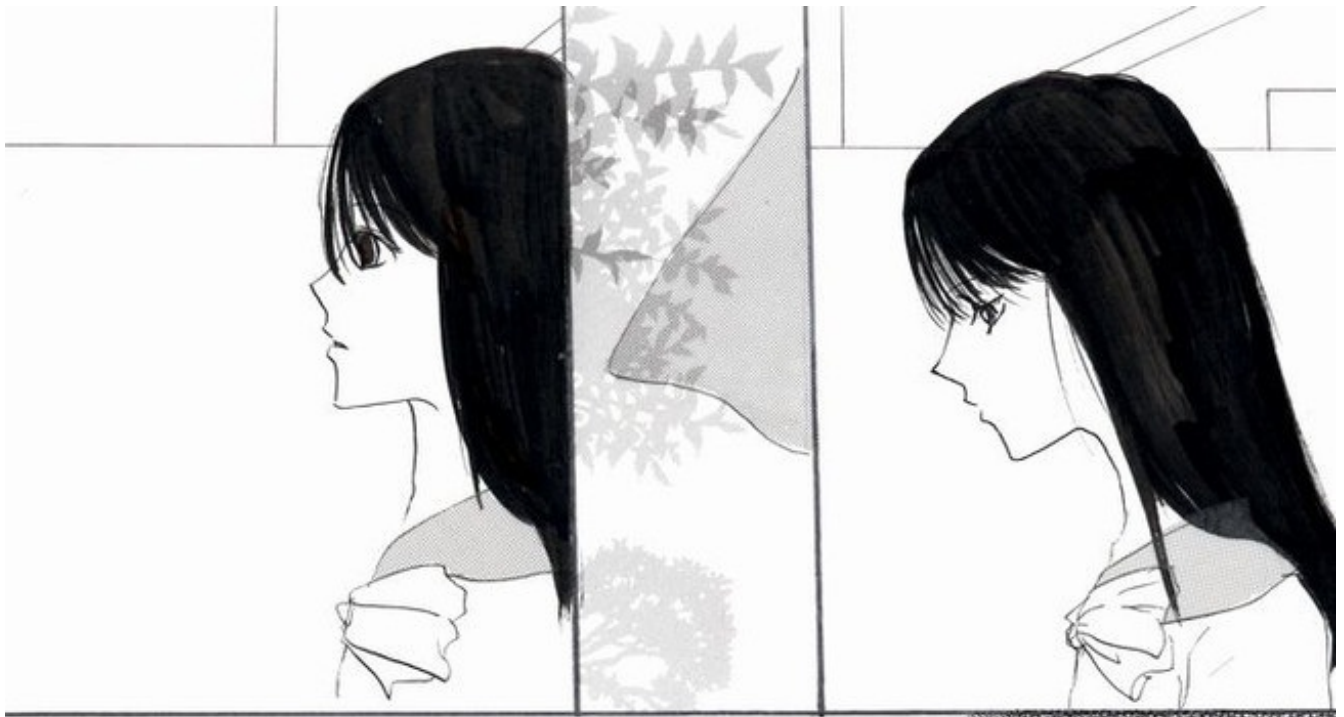
っす











…真夏なのよ…



真っ赤なコート…。



もしかして危ない人？

もっ、

はっ







「危ない人」って

思った？

どうかなあ？  
わからないよ

あなたも  
そうかもよ

私もあなたも  
同じなんじゃ  
ないかな？

本当は

かきまわ  
らないで  
下さい

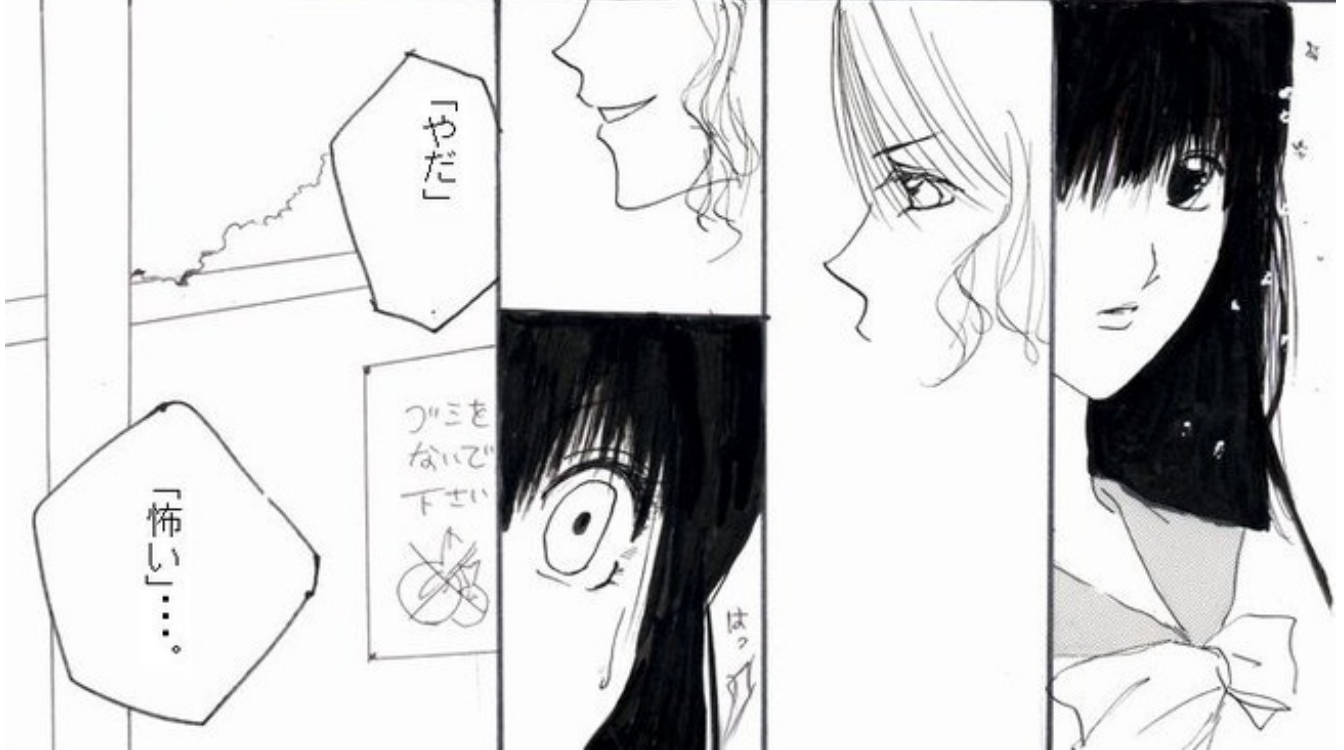


私もあなたも  
誰も  
みーんな

だってね









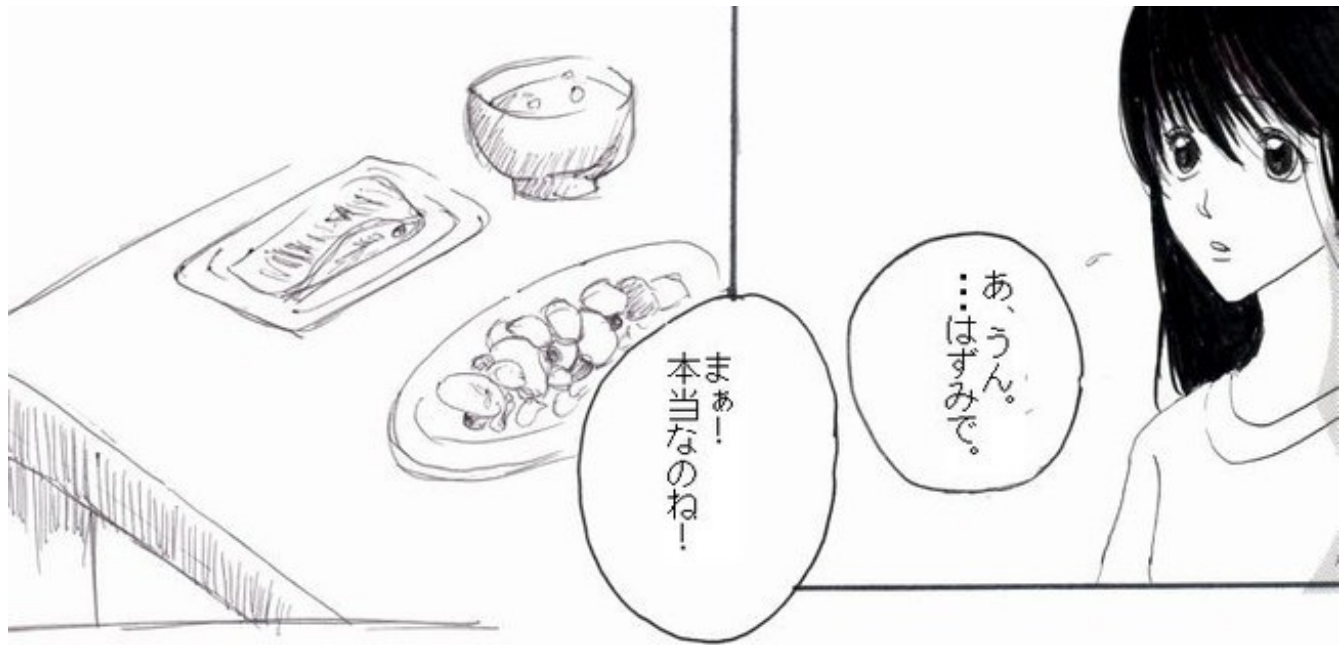
「赤コートちゃん」よ



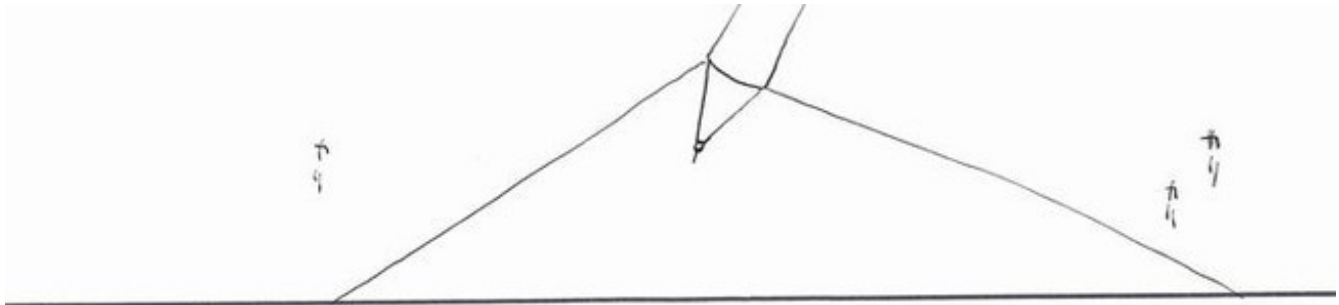
ああ、それは











あれえ...?  
わかんない...

え...と...

代入しても...  
あれえわかんないよー

$x^2 = \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x^2$   
上記に代入  
の式に代入  
求めよ。  
: 但し  $x^2 = 2$   
:  $x^2 = 2$  の場合  
:  $x^2 = \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}x^2$ ??

頑張るんだ。



お母さん鼻が高いわ

がんばらなまきや。

「赤コートちゃん」は  
きつと人生に  
負けてしまった  
人なのだ。

あんな風にな  
ってはいけ  
ない。

決して、  
決して。



おおお〜〜スゲー

ナコレ何〜？  
いんバね〜

カンストの勢いだな！  
いつ寝てんの？

戦士は一人では  
何も出来ない  
——孤独は嫌いなのだ

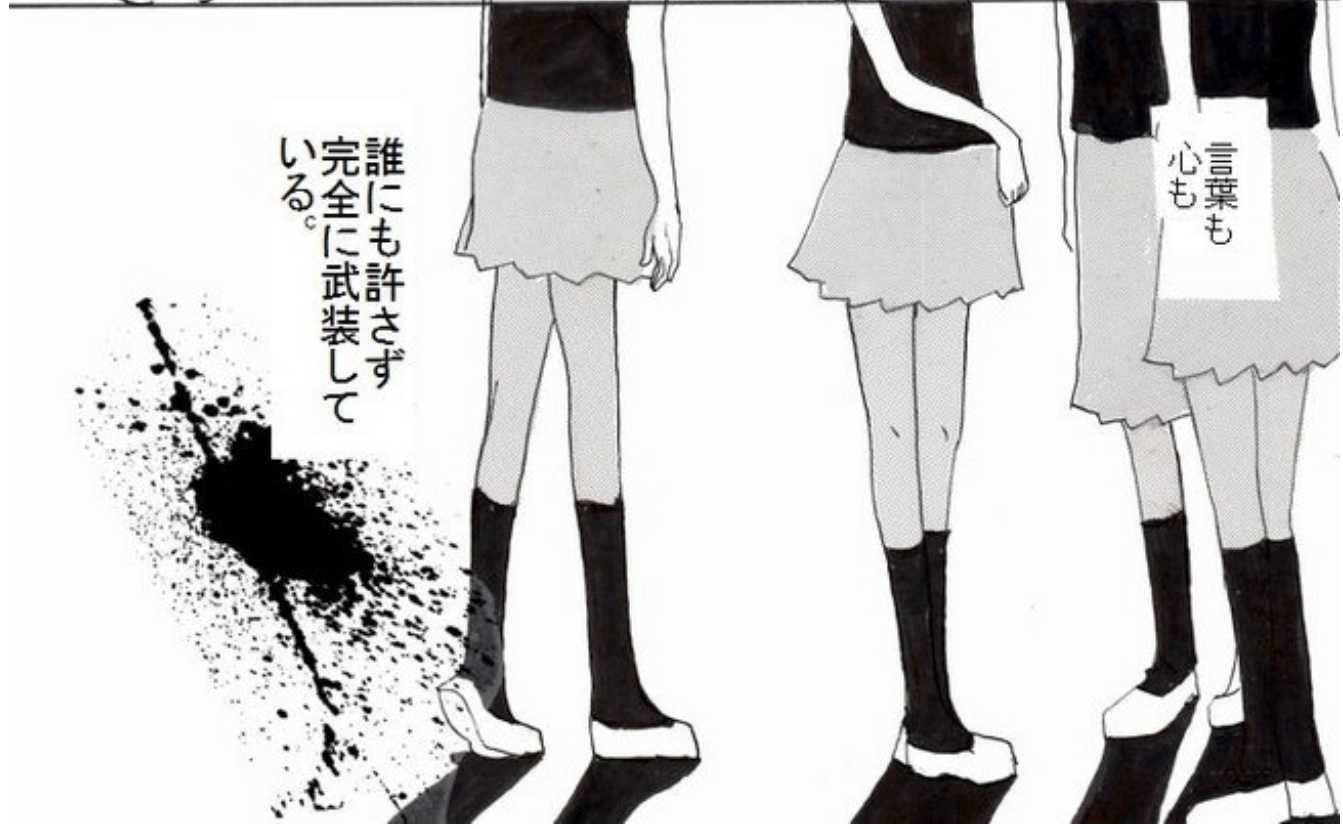


わー！

その時計駅前  
売ってる？

だから  
心地よい言葉を  
掛け合い  
慰めあう。

売り切れてたら  
ショックだわー

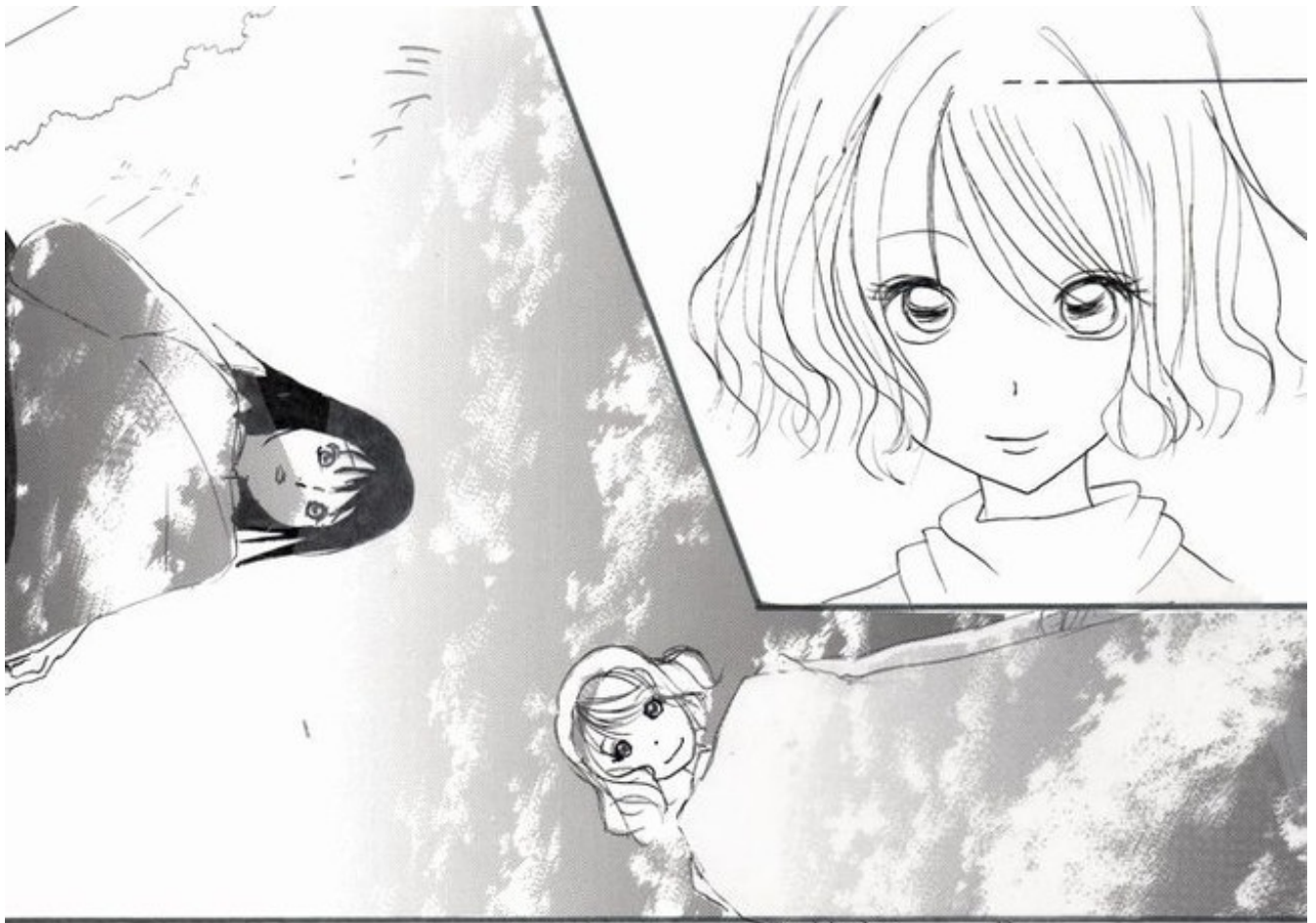


言葉も  
心も

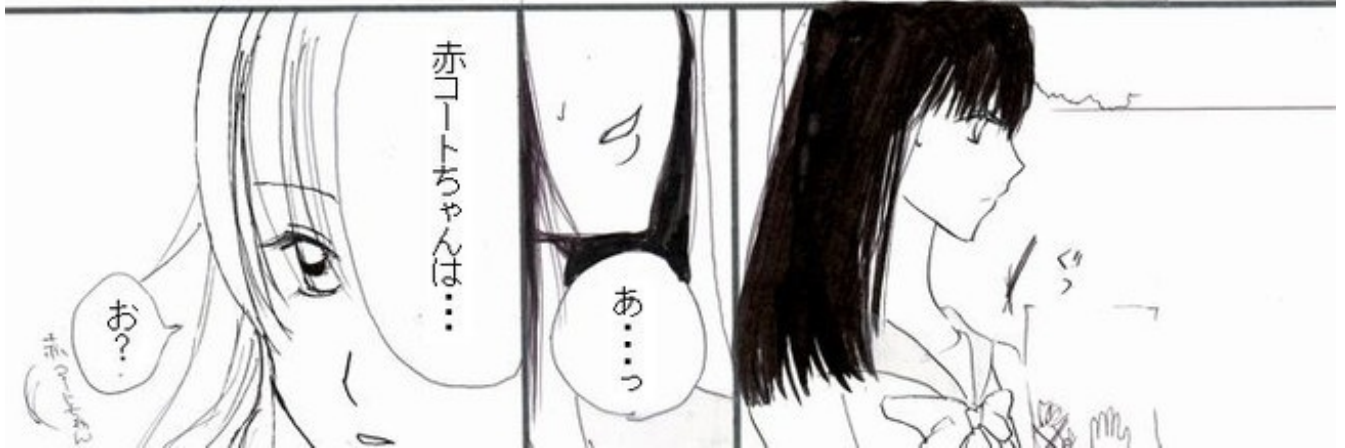
誰にも許さず  
完全に武装して  
いる。







また会ったね。



赤コートちゃんね...

あ...?

あ...?





身も心も……て、はは  
補導とか  
されちゃうから……?

まじでえ——?  
ありえねえ——

キモイ

齋田あ〜?

齋田と工藤君があ〜?

ないないない!  
釣り合わない!

だって  
齋田って  
ブスじゃーん!

ブスだよ  
ブス

斎田……さん。

確か図書委員で

小柄な子……



昨日まで誰も  
プスたなんて  
言っていなかった。

佐伯ーっ



んあ？

佐伯も  
そー思うっしょ？

えー？  
何？こめん  
きいてなかったー

もくもくっ  
だからウチのクラスの  
斎田があー

バカーやめたげてえー  
佐伯はねえー

そういう話  
キライなんだよー！



ゆうこー？

……

このおぼろー  
きこえんぞ  
斎田……  
んごもーか  
はは  
ま



動物って  
すごいね。

裸で  
走り回ることが  
出来る。

ヒト  
人間には  
モラルがあつて

出来ない事だけど

本当はね、

本当は  
すぐにでも…

けど

ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。









あっはは。

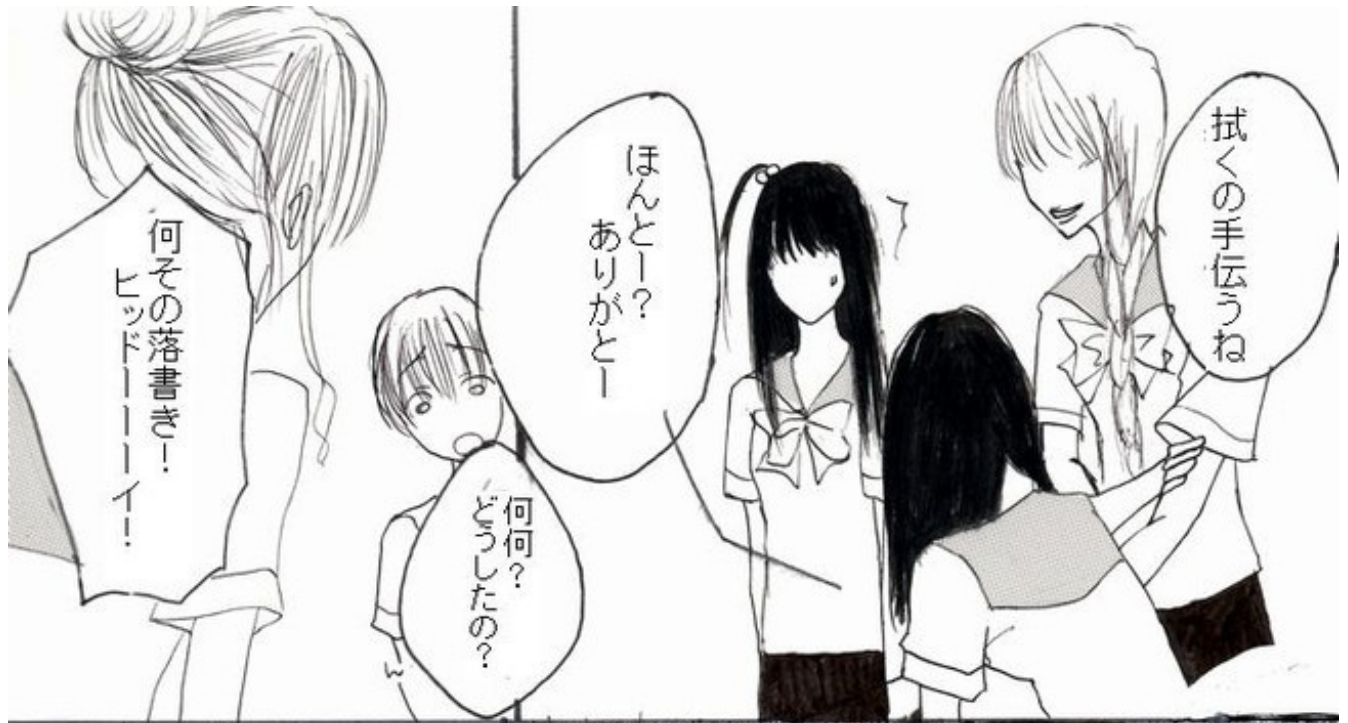
いらいちゃんアナル  
死ね！学校くんな！！  
死ね！

朝来たらあつたの。  
ウツケるー  
何その落書き。  
ううん  
佐伯 かわいそう

「かわいそう」なのはこれ書いた子だよ  
こんなことしてないで勉強すればいいのに  
やる事バカだよ。  
偏差値低そうだよねええええ。  
あつたの。

流石に佐伯は考え方が大人だよ！  
そーだよねッ  
そっ





この  
戦闘服を着ていると  
なんて

ああ、

なんて







あれ？



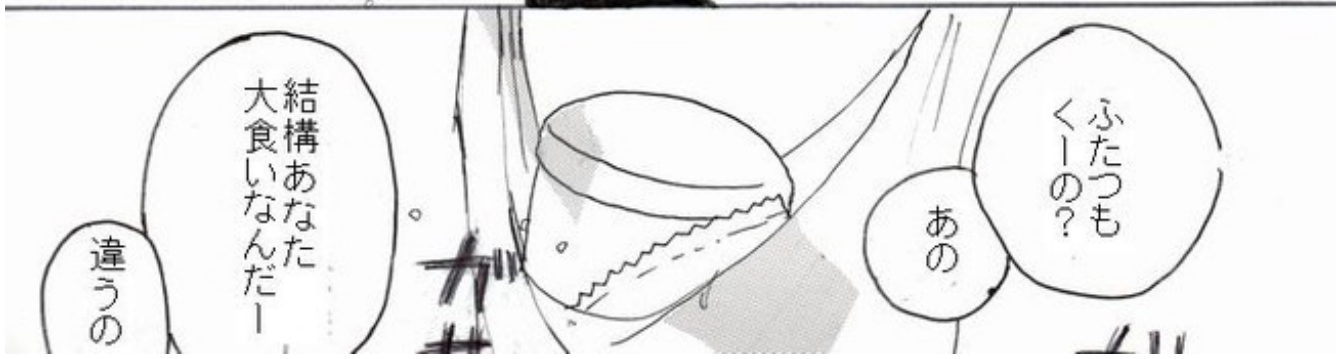
今日は  
逃げないんだね？

あの

あ！



アイス！

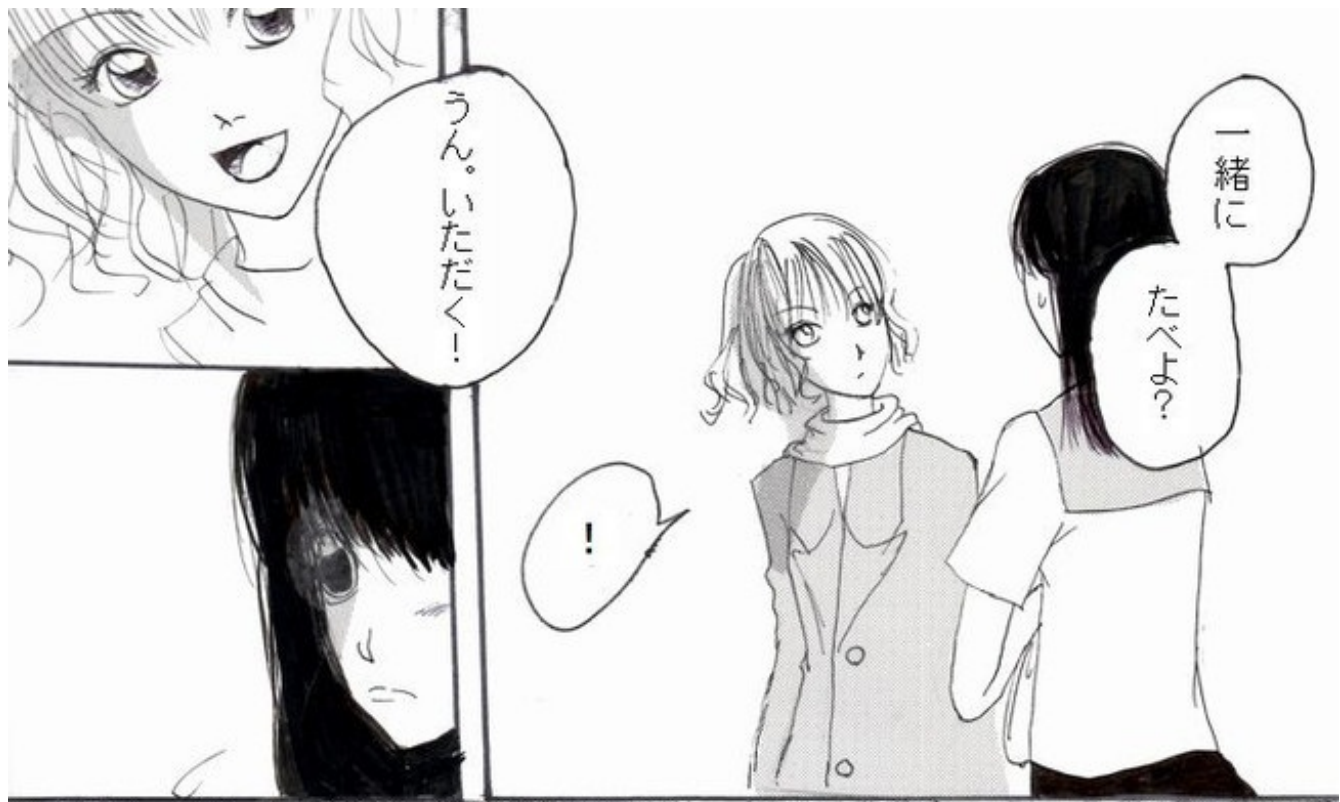


ふたつも  
くの？

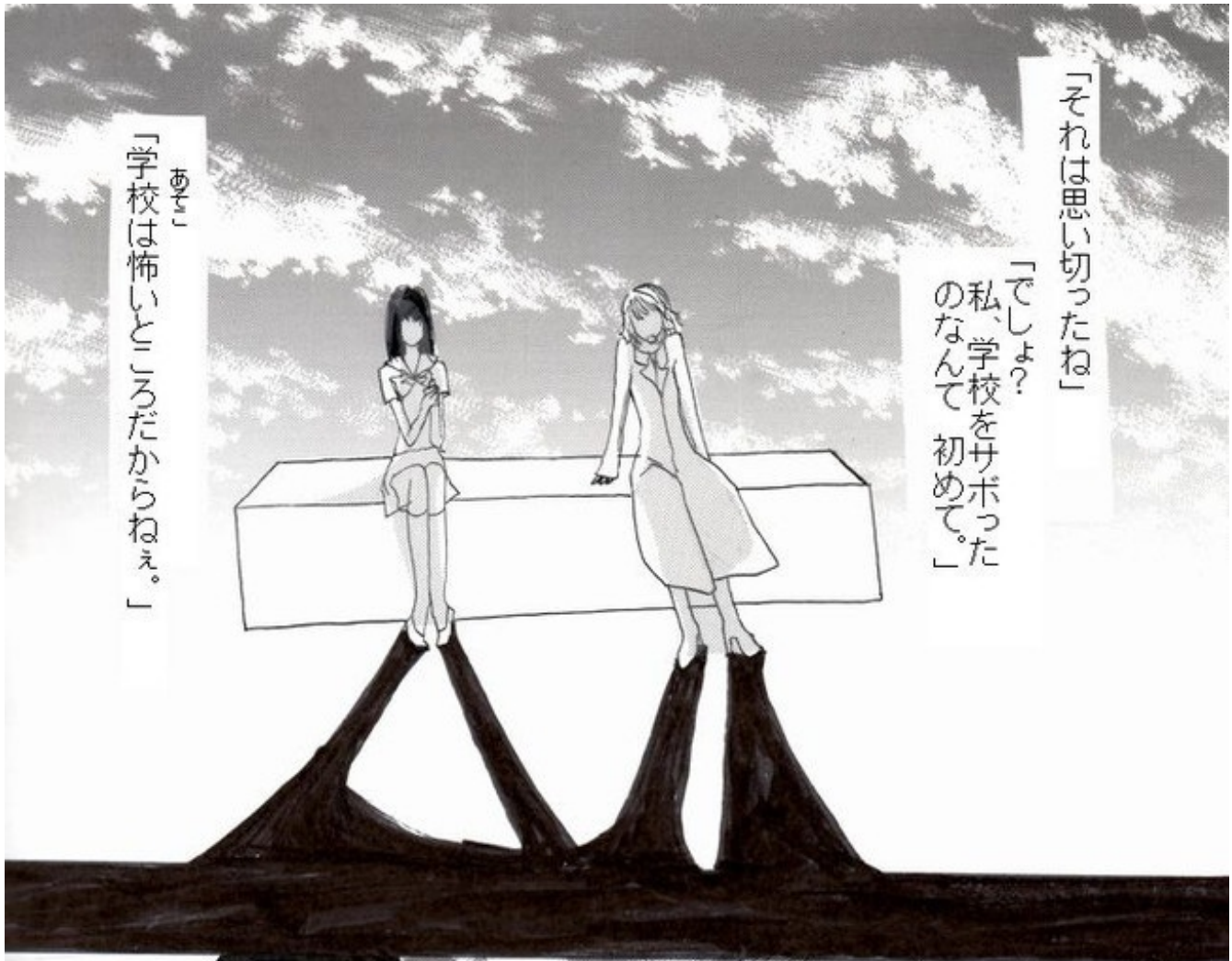
あの

結構あなた  
大食いなんだー

違うの







「それは思い切ったね」

「でしょ？」  
私、学校をサボった  
のなんて初めて。」

「あ、  
学校は怖いところだからねえ。」



「抜け出すのは  
相当  
難しいしね。」

「でも私 できたよ」

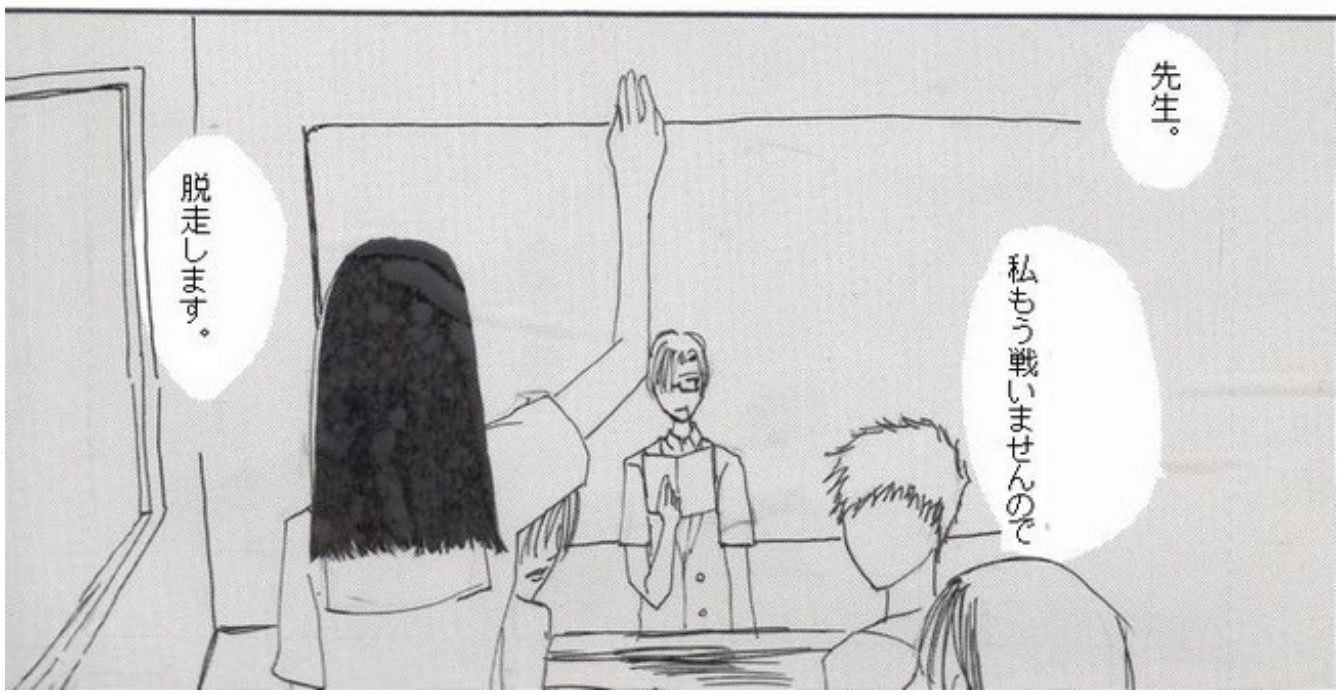
「えらいねえ」

それは偉かったねえ。



「.....」

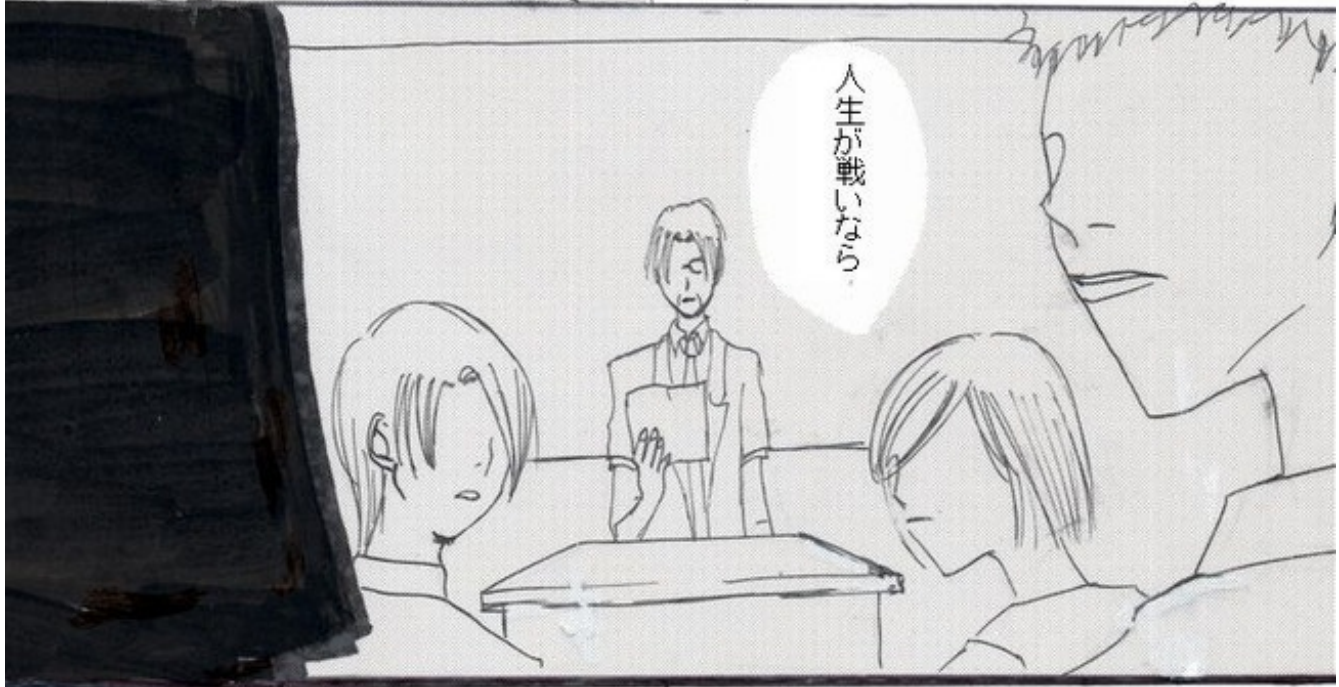
「.....」







私、もう戦いません。



人生が戦いなら。

私はもう、  
負けで構いません。



「赤コートちゃんはいじょうぶ、」



「ねでいって思ったの？」



「さあー、もう覚えてないな」



「そっかあー...」

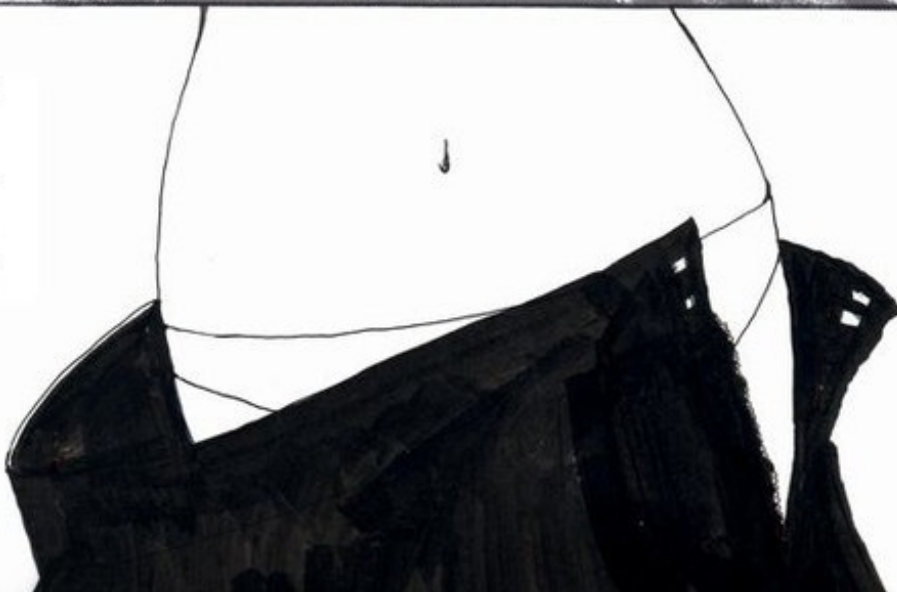
「でも、  
お母さんを悲しませるのは  
イヤだなあ。」

「悲しまないよ。  
心配はするけど...」



「解ってくれるから親なんだよ。」

「そっかなあ。」





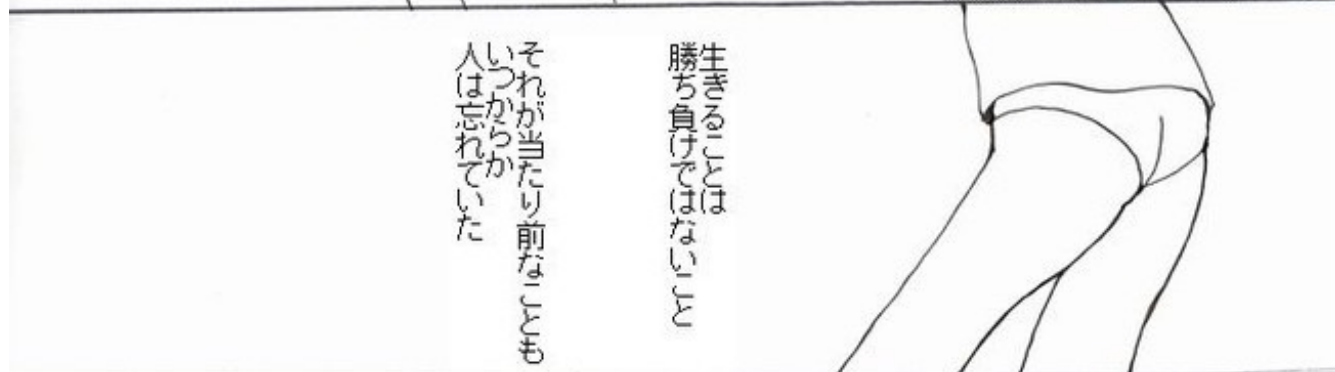
「さ。あ。あ。」





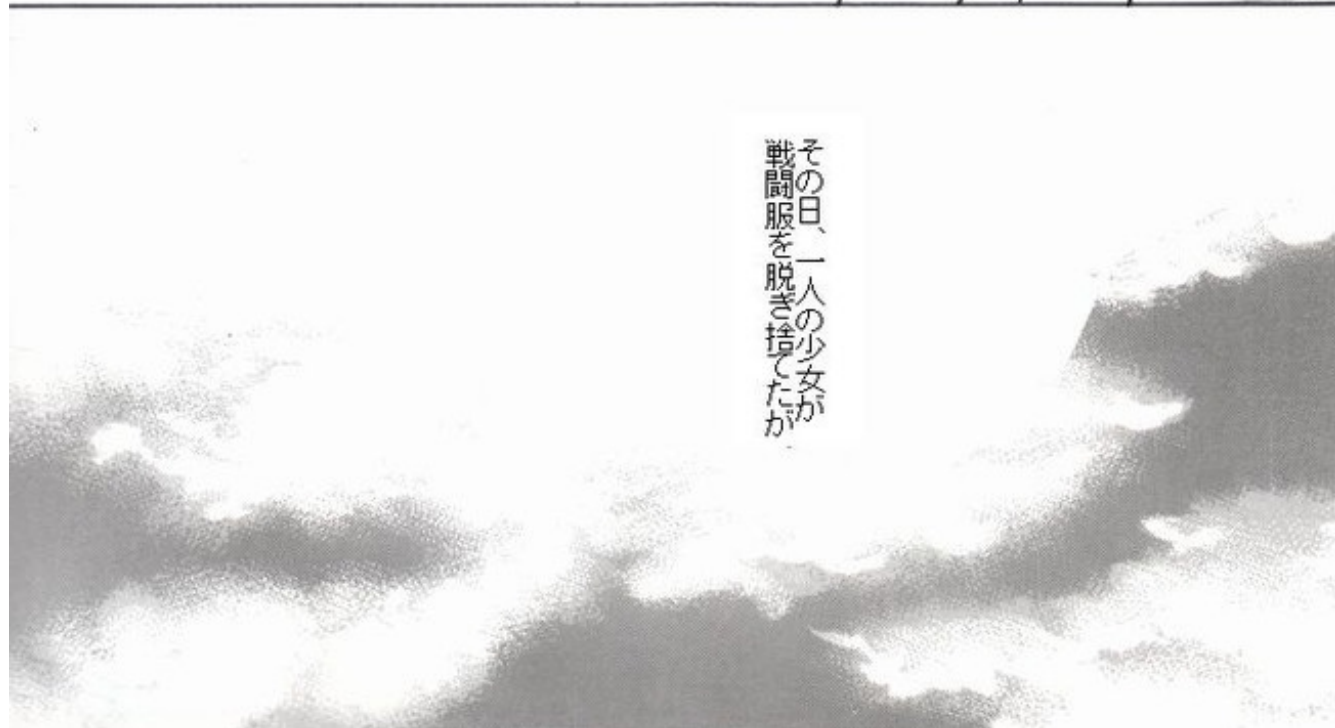
ナイス戦線離脱ー！

いい風ー……



生きること  
勝ち負けではないこと

それが当たり前なことも  
いつからか  
人は忘れていた



その日、一人の少女が  
戦闘服を脱ぎ捨てたが



夕日は優しく、脱走兵をかくまった。



## 夕方時の少女戦線

<http://p.booklog.jp/book/69740>

著者 : uduharuru

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/uduharuru/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69740>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69740>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ